一般社団法人日本医療薬学会 2023 年度第 4 回定例理事会 議事録

一. 開催日時: 2023年10月11日(水) 13時~ 15時50分

二. 開催場所: ハイブリッド開催(事務局会議室+Zoom を利用したウェブ会議)

三. 出席者

会 頭: 山本 康次郎

理 事: 石澤 啓二、宮﨑 長一郎

以下の出席者は、Zoomを利用したウェブシステムにより参加した。

副会頭: 寺田 智祐、百瀬 泰行

理 事: 伊藤 清美、齋藤 秀之、佐藤 淳子、佐野 俊治、関根 祐子

田﨑 嘉一、富岡 佳久、豊見 敦、中村 敏明、村木 優一、

矢野 育子

監事: 奥田真弘、望月真弓、安原真人

顧 問: 武田 泰生、和田 一夫

年会長: 三浦 昌朋 (第33回年会)、本間 真人 (第34回年会)

陪席者

事務局: 星隆弘、姫嶋直子、針生裕子、田中結寿、阿部薫

欠席者

副会頭: 石井 伊都子

理 事: 池田 龍二、花輪 剛久、濱浦 健司

顧 問: 山本 信夫、五十嵐 邦彦

四. 議長: 山本 康次郎

五. 会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 16 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨が報告された。

六. 議事の経過の概要及びその結果

1. 2023 年度第3回定例理事会議事録の確認

議長より、2023 年 8 月 10 日に開催された 2023 年度第 3 回定例理事会議事録について、役員に事前送付を行ったうえ確認を依頼している旨が説明され、修正等がある場合には本理事会終了時までに指摘するよう要請があった。

2. 協議事項

(1) 2024 年度事業計画 (案)

富岡理事より、2024年度事業計画案について、前回理事会で指摘があった JPHCS 誌のインパクトファクター取得情報に追記した旨が説明された。協議の結果、本案が了承され臨時社員総会に諮ることとなった。

(2) 2024 年度予算(案)

石澤理事より、2024 年度予算案について、例年、収支均衡となる予算を組んでいるが、2024 年度は専門薬剤師制度支援システムの構築や事務局改装により減価償却費を大きく見積もっているため、支出過多の予算案となっていることが説明された。議長より、今後の年会の運営をはじめとした学会全体の収支を踏まえた事業活動のあり方に関する検討の必要性に言及があった。2024 年度予算案は了承され臨時社員総会に諮ることとなった。

続いて事務局より、今後の普通預金口座の残高等の推移見込みの説明とともに、 その一部を定期預金化する提案があり、本議案は了承された。

(3) 第15回臨時社員総会資料、同総会及び学会賞表彰式の当日運営の確認

事務局より、第 15 回臨時社員総会資料、同総会及び学会賞表彰式の当日運営について説明がなされ、総会資料に意見があれば事務局へ寄せていただきたい旨が述べられた。協議の上、了承された。

(4) JPHCS 誌への学会賞受賞者による総説投稿に伴う費用負担の取扱い

村木理事より、JPHCS 誌への学会賞受賞者による総説投稿に伴う費用負担について、出版社との取り決めにより総説は年間 4 報を上限に APC を免除できるようになっている。JPHCS 誌編集委員会としては、当該受賞者による総説が年間 4 報を上回った場合には、学会側で費用負担をしていただけないかという意見が説明された。協議の結果、本議案は学会側で費用負担をすることとなった。また、奥田監事より、学会としては予測可能な最大数での負担額を算出し、予め予算に反映すべきではないかという意見が述べられ、次年度以降に対応することとなった。

(5) 2023 年度海外研修等助成員の選考

矢野理事より 2023 年度海外研修等助成員に1名より応募があり、選考委員会にて COI に配慮し厳正に選考した結果、山本和宏先生(神戸大学医学部附属病院)を助成員として選出した旨が説明された。協議の結果、本議案は了承された。

(6) 海外研修等助成員の募集(2023年度二次募集、2024年度の募集計画)

矢野理事より、2023 年度の海外研修等助成員の募集について、二次募集として本年 11 月末まで再募集すること、また 2024 年度の同募集は、助成員の員数及び助成額の上限を変えることなく研修対象期間を 3 期に区切ることとし、募集期間も 3 期に分けて実施することとし、その募集要項が提示された。併せて、応募書式の改訂を図ることが説明された。協議の結果、本議案は了承された。

(7) 2024 年度医療薬学学術委員会の調査研究課題の募集

齋藤理事より、2024 年度医療薬学学術委員会の調査研究課題の公募要項について、昨年と異なる点の説明とともに募集を開始すること説明された。協議の結果、 本議案は了承された。

(8) 2024 年度各学会賞受賞候補者の募集

事務局より、2024 年度各学会賞の内規及び応募書式の改訂について、改訂案に係る説明とともに、2024 年度の各学会賞の募集を開始することが説明された。議長より、応募書式の改訂に係る一部文言への指摘があり、協議の結果、内規の改訂は了承され、また応募書式については修正した上で本募集を開始することが了承された。

(9) 第38回年会長候補者(2028年開催)の募集

富岡理事より、第 38 回年会長候補者(2028 年開催)の募集要項が示され、募集 を開始する旨が説明された。協議の結果、本議案は了承された。

(10) 2024-2025 年度役員候補者選挙開票立会人の選任

富岡理事より、2024-2025年度役員候補者選挙開票立会人として鈴木裕之氏(東北医科薬科大学)を選任したことが説明された。協議の結果、了承された。

(11) 日本薬系学会連合代表者会議の報告、設立記念フォーラムに係るタスクフォース会議への対応

奥田監事より、日本薬系学会連合代表者会議の第1回目の開催報告があった。その中で、今年の年末から年始頃の時期に設立記念フォーラムの開催計画があることなどが報告された。続いて、議長より本フォーラムのタスクフォースとして、本学会より石井副会頭に参加いただくことへの意見の求めがあり、協議の結果、了承された。

- (12) 薬剤師研修センターからの生涯学習達成度確認試験に係る申入れ等への対応 議長より、薬剤師研修センターからの本学会に対する意見伺いとして「薬剤師生 涯学習達成度確認試験に係る試験会場の集約に関すること(全国 7 会場で実施を 特定の地域に集約して実施すること)」及び申し入れとして「同試験問題の作成・ 提供に係る本学会への事務委託費の見直し(減額)」を受けたことが説明された。 協議した結果、前者については、本試験の成り立ちを踏まえた議論が無く、受験者 の増加策や収益の改善策などに係る検討や活動が見られないことより、本学会と しては現状を継続すべきと回答することとした。続いて後者については、現在は本 試験開始時に算定した費用を事務委託費として受領していることが説明されたが、 現在の物価や人件費等をもって再積算すべきとの意見があり、本議案を再検討す ることとした。
- (13) 学会事務局の改装に係る意見伺い

事務局より、事務局の改装に係るレイアウト図及び改装経費の概算見積りに係

る説明があった。レイアウト案については、対面形式で理事会を開催できる大会議室及び将来的に常勤役員室にも転用できる小会議室の設置、事務局職員の増員にも対応できる居室スペースの拡充などを盛り込んだ旨の説明と、続いて見積金額について、今後の詳細な仕様や設備の設置により支出が増える可能性に係る説明があった。協議の結果、さらに改装計画を詰めるとともに、理事会への報告及び意見を踏まえながら本改装を進めることとなった。

(14) 過年度会費の遡及納入に係る嘆願への対応 (3件)

宮﨑理事より、2022 年度会費の遡及納入に係る 3 件の嘆願への対応について説明がなされた。協議した結果、本嘆願は了承された。

(15) 薬局における疾患別対人業務ガイドライン作成のための調査業務に係る疾患 別作業部会(脳卒中)の編成

寺田副会頭より、前回理事会で協議した薬局における疾患別対人業務ガイドライン作成のための調査業務に係る疾患別作業部会(脳卒中)の編成について、本事業の受託業者が PwC コンサルティング合同会社になったことを受け、同社及び日本薬剤師会との打ち合わせにより、改めて医師委員を含むメンバー編成を検討したことが説明された。協議の結果、了承された。なお、本編成は受託会社に連絡(推薦) するとともに、委嘱や謝金の支払いは同社が対応することになる。

(16) 日本癌治療学会からのアンケートへの協力依頼

寺田副会頭より、日本癌治療学会が作成する「制吐薬適正使用ガイドライン (2023年10月改訂第3版)」の発刊前後の診療動向を調査する目的で、薬剤師を対象としたアンケート調査を本学会に依頼したいという主旨の説明があった。また、今回は先方が設定したアンケートの実施が早期に始まること及び回答期間が短いことより、会頭・副会頭の協議により承諾し、本学会会員宛に協力依頼の連絡をしたことが補足説明された。

(17) その他

事務局より、現在 2024-2025 年度の役員候補者選挙の立候補者の受付中である 旨の連絡があった。

3. 報告事項

(1) 理事会メール審議に係る報告(1件)

事務局より、前回の理事会から昨日までの間に理事会へのメール審議が行われた案件の概要と審議結果が報告された。

- ・2023年度専門薬剤師認定試験(生涯学習達成度確認試験)の合否判定(8/29)
- (2) 第33回年会(仙台) 準備状況報告

三浦年会長より、本年11月2日(金・祝)~4日(日)に仙台国際センター等で開催される第33回年会の準備状況や収支計画などが報告された。特に、企業共催への

応募が少なく、またオンデマンド配信による支出の増加に関する言及があった。

(3) 第34回年会 (千葉) の準備状況報告 (意見伺いを含む)

本間年会長より、2024年11月2日(土)~4日(月・祝)に幕張メッセにて開催予定の第34回年会準備進捗状況の報告があった。また、同年会長より、企業共催が少ない中での運営が見込まれることより、参加費の変更に係る意見伺いがあったが、議長より当該意見は将来的な年会の運営に大きく関わるため、まずは学術大会小委員会で検討することになる旨の発言があった。また、同年会長よりオンデマンド配信について、今後の年会で毎回実施するのであれば、学会側で体制を構築することや支出負担を検討すべきではないかという意見も述べられ、本件についても学会側で検討することとした。

続いて、矢野理事(第35回年会長)より、年会における謝金の規程はあるが、年会ごとに非会員シンポジスト等への謝金の支払いに差異があるのも良くないため、学会として統一すべきであり、今後方針を決めて欲しいと意見があった。議長より、年会運営実行小委員会にて、望ましい運用を決められるよう検討していただきたいと意見があった。

(4) 医療薬学公開シンポジウムのプログラム報告 (第89~92回)

伊藤理事より、4回分のプログラムが確定しすべて現地にて開催する予定である 旨が報告された。

- (5) 2023年度がん専門薬剤師集中教育講座のプログラム
- 寺田副会頭より、2023年度がん専門薬剤師集中教育講座のプログラムが紹介され、11月~12月下旬頃までオンデマンド配信により実施することが報告された。
- (6) 2022年度学術第2小委員会企画 「薬剤師のためのオンライン研修セミナー及 びワークショップ」プログラム

事務局より、2022年度学術第2小委員会が、2024年2月12日(月・祝)に「薬剤師のためのオンライン研修セミナー及びワークショップ」の開催を企画していることが報告された。

(7) 日本学術会議 「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」に係る応募案件「患者主体的医療体制の実現とそれを支えるヘルスリテラシー教育体制を構築」の採択報告

議長及び望月監事より、日本学術会議 「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」に対する本学会からの応募案件「患者主体的医療体制の実現とそれを支えるヘルスリテラシー教育体制を構築」が、日本学術会議の提言「未来の学術振興構想(2023 年版)」に掲載されたことが報告された。

(8) 後援依頼への対応(2件)

議長より、後援依頼が2件あり了承したことが報告された。

- ・第34回オンコロジーセミナー(主催:NP0法人がん医療研修機構)
- · 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2024 (主催:日本臨床腫瘍薬学会)

(9) 委員会報告

次の各委員会の開催概要が議事録にて報告された。

- ・2023年度第2回国際交流委員会
- ・2023年度第2回医療薬学学術委員会

(10) その他

宮﨑理事より、2023 年春に厚労科研が実施した本学会退会者へのアンケートの回答内容について、会員委員会で本学会として検討すべき事項について提言をまとめたので次回の理事会にて提出したい旨が報告された。

以上をもって全ての議事の審議及び報告を終了したので、議長は 15 時 50 分に 閉会を宣言し、解散した。